
世界ハカクモ美シク

palm

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

世界ハカクモ美シク

【Nコード】

N1731Z

【作者名】

p a l m

【あらすじ】

勇者がいるから、魔王を討てる。魔王がいるから、勇者は現れる。勇者は世界に平和をもたらす。魔王は世界を恐怖に陥れる。それは当たり前で、当然の世の理だった。そして、この世界にもまた一人の勇者と一人の魔王が、時代の節目に現れていた。これは、世界を救った一人の勇者のその後の物語である。

最終的に立場が逆転したプロローグ（前書き）

ストックなんてありません。ノリとテンションで書き、更新します。
なので、一話の長さは短いですが、マメに更新したいと思います。

最終的に立場が逆転したプロローグ

「——いいか、魔王というのはだな」

「……………」

俺の目の前には、自称勇者がいる。否、自称ではない。この世界で唯一人の勇者である証、『勇者剣ライトエンド』を腰に携えているのだから。

「こういう場面だったらあれだ、『貴様に世界の半分をくれてやろう』とか言って勇者の信念を意味無く鈍らせようとするのがセオリじゃないか」

女が勇者というのは珍しいが、文献によると決してなかったことではないので問題ない。

問題があるとしたら——。

「そこで私がこう言うんだ。『むしろ全部寄越せ』ってな。やっぱ一人で一から世界征服するのはメンドイし、かといって世界は欲しいしで大変なんだぞ、私も。つか魔王。アンタ世界征服するの遅すぎ。いつになったら進行してくんだよ。だからこうして私がわざわざ来てやったってのに、『よく来たな勇者よ。最後の決戦を始めようか』は無いわー。何が最後の決戦よ。中ボスもないし、城の中にモンスターはほとんどいないし、なんだ？　もしかして魔族って人手不足なのか？」

勇者のこの性格だ。

だいたい、今の俺達の位置関係だっておかしい。俺の知る魔王と

勇者の関係なら、魔王が玉座に座って勇者を見下ろすのがセオリーだ。

なのにこの勇者は、俺が、勇者が城に開けた穴の補修作業に行っている間に俺が座るはずの玉座に座っていた。足を組んで、銅に入った格好で。

え、何この勇者。魔王よりよっぽど勝手なんだけど。

「聞いてんのかよ、魔王さんよー」

「……うむ」

そして、何故俺は勇者から『魔王について』を語られているのだろうか。

俺は教えられた通り、一匹狼で強い孤高の王者を演じていたというのに。

「だいたいアンタは魔王っぽくねーんだよ。この前の戦いん時だって、モンスターのピンチに颯爽と駆けつけて何処のヒーローだったーんだよ」

「いや、しかしそれは上に立つ者として当然の……」

「甘い。甘すぎるよ魔王。駒は使ってなんぼ。使い捨てが常套手段だろーが」

「ただでさえ少ない魔族の同胞を助けることが、それほどおかしいことか？」

人間と比べれば能力は高いが、繁殖力の乏しい我が一族の仲間達を救いたいと思うのは当然のことだと思う。

「んなもん世界征服してから産んで増やしていけばいいんじゃないか」

「死んだ者は二度と戻らない」

「なら、大切なやつは大事に守っとくんだな」

「……俺にとって、魔族みんなが家族で、大切な人だ」

「ハッ！ 家族？ あのモンスターがか？」

「そうだ」

小さな頃からこの城で共に暮らしてきた、かけがえの無い家族だ。

「いいねアンタ。気に入ったよ」

勇者はニヤリと笑うと、玉座から立ち上がる。

「……悪いが、俺はお前が気に入らない」

腰から『魔刀ダークエンド』を抜き、構える。

「ハハハッ！ いいねえ。やっぱりラストバトルでは殺気ぐらい込められてないかね！」

応じるように、勇者も『勇者剣ライトエンド』を抜く。

「……俺は、家族を守って見せる！」

「来な、魔王！ お前を倒して、私が世界を手に入れてやるよ！」

——こうして。

世界を守る勇者と、世界を滅ぼさんとする魔王との最終決戦の火蓋がきって落とされた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1731z/>

世界ハカクモ美シク

2011年12月6日07時50分発行